

皆さん！良識の声を！

稲盛和夫名誉会長の日本航空で、「JAL フィロソフィ」なる手帳を全機長に配布し、航空業界全体で今や空の安全は風前の灯に。「20 万円燃料費節約のため迂回せず台風突っ切り事件」も発生。良識の声を！

「利益なくして安全なし」の稲盛イズムが空の安全を脅かす

本年三月末の JAL 解雇事件東京地裁の判決は、整理解雇の人選基準である病欠と年齢基準は、安全運航に及ぼす影響はないとして、整理解雇を容認しています。会社更生中であろうとも、安全運航は第一です！

ベテラン乗務員の経験を全く無視した判決

病欠基準による解雇によって不安全问题は生じないとする判決

トラブル続きに大西会長から社員へ異例のメッセージ

現在 JAL では、短期間に尻もち事故やエンジン空中停止などの事故や、各職場で不安全事故が続発する深刻な事態になっています。病欠を解雇の理由とした問題で、「病気でも素直に申告して仕事を休みにくい」との職場の声があることは、会社も認めていることです。現に今年 1 月に機長が肋骨が折れたまま乗務し、帰着した時は車いすで搬送されたケースがありましたが、まさに休めない物言えぬ象徴的な例です。

整備の職場でも重大人身事故多発

整備の職場では重大人身事故や不安全事故が多発しています。指の切断を含めた指を切る事故が昨年 1 2 月から 3 件起きています。一昨年行われた 4 5 歳以上を対象とした希望退職で、大量のベテラン整備士がいなくなり、技術の伝承ができにくくなっていることや、労働条件低下やモチベーション低下がこうした事態を引き起こしていると考えます。子会社である整備会社（日東整）を潰し、そこに働く全労働者の仕事を奪ったこと等も決して無関係ではありません。



客室の職場でも「有意注意」が繰り返し出されますが……

離陸中、機内食の入ったカートが調理室から飛び出し、ビジネスクラスを越えエコノミークラスの座席に挟まって止まったケースがまた発生しました。昨年、CA が立ったまま着陸するという前代未聞の事例が 2 度起こりましたが、客室の職場でもこうした不安全事故が後を絶ちません。ベテランが大量にいなくなったことや、安全よりも利益優先の経営方針の下、行き過ぎたサービスで業務量が多くなっていることも要因の一つと考えられます。

行き過ぎた人員削減と、利益優先の経営姿勢に問題

破綻後、希望退職で多くのベテランが職場を去って行きました。また JAL グループで更生計画上の人員削減目標を 1300 人もオーバーしたにも関わらず、整理解雇を強行した結果、職場は人が足りない状況になっています。また、稲盛前会長の利益優先の教育が職場に浸透し、安全に対して物がいいない雰囲気になっています。

